



エストニア月間情勢報告

【2025年11月】

在エストニア日本国大使館



【11月の注目記事】

内政

● 25日、検察、祖国党に対する違法献金計33万ユーロの疑いで実業家や元党役員6人と3法人に容疑をかける旨発表。

外交

- 4～5日、ツァフクナ外相、中国訪問。
- 10～14日、タロ内相とライム内務省次官補、訪日。
- 15～22日、ミフケルソン外交委員会委員長、NATO議員会議政務委員会の一員として訪日。小泉防衛大臣と意見交換。

防衛

● 24日、新たなK9自走砲6両、当地に到着。約1億2,000万ユーロで計36両調達。

経済

● 5日、Skeleton Technologies社、フィンランド（ヴァルカウス）工場を開設。

SNS

大使館HP：https://www.ee.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html



中村耕一郎大使インスタグラム：https://www.instagram.com/amb_japan_estonia/

大使館インスタグラム：<https://www.instagram.com/japanembassyestonia/>



大使館フェイスブック：<https://www.facebook.com/share/1Yecpayktp/?mibextid=wwXlfr>

1 内政の主な動き

- 4日、タリン市議会にて、祖国党と中央党が連立交渉を開始。28日、祖国党は、タリン市長候補にラウドセツプ・エストニア経済研究所長を推薦。
- 4日、保安警察、ロシアによる情報工作に加担した疑いおよび国際制裁違反の疑いで親露活動家のオレグ・ベセディンを拘束。
- 6日、政府、来年の移民枠1, 299人を承認。人口の0. 1%の規定で前年比-6人。
- 11日、イムレ・ソーアール元議員（56歳、エストニア・日本友好議連元会長）死去。
- 13日、政府、Eesti Post社（Omniva、国有郵便）の私有化の準備開始を決定。
- 13日、タルトゥ市議会にて、改革党と祖国党が連立合意。クラス市長（改革党）がタルトゥ市長を続投。
- 19日、国会、柔軟な労働時間の契約締結を認める労働契約法改正案を可決。雇用者の都合で毎月の賃金変動することから、労組団体が国会前で反対のデモ。
- 20日、国会、ヨッレル社会相の不信任案を否決。野党4党が介護施設の値上げ案等に反対して提出。
- 21日、11月政党支持率（Kantar Emor社）：祖国26%、中央党19%、社民党16%、保守人民党13%、改革党12%、右派9%、エストニア200党3%、Koos党1%。
- 25日、検察、祖国に対する違法献金計33万ユーロの疑いで実業家や元党役員6人と3法人に容疑をかける旨発表。2020～24年に6人は、党関連NPOのウェブサイト及びフェイスブックで広告及び情報分析サービスを党に無償で提供した疑い。
- 27日、政府、新規在外公館の開設を承認。2026年にモルドバ、アルメニア、アゼルバイジャン、ブラジル、ケニアで大使館を開設予定。
- 28日、デルフィ紙、最も影響力を持つエストニア人100人2025年ランキングを発表：1位ミッハル首相、2位レインサル祖国党首、3位カッラスEU外交安保政策上級代表、4位パルト氏（作曲家）、5位リンナマエ氏（実業家）、6位フセヴィオフ外務次官。

2 外交・その他対外関係の主な動き

- 4～5日、ツァフクナ外相、中国訪問。王毅外相と二国間関係やロシアによるウクライナ侵攻に関して会談。エストニア外相の訪中は10年ぶり。
- 6日、クリステション・スウェーデン首相、エストニア訪問。ミッハル首相と防衛協力やウクライナ支援に関して会談。
- 10～14日、タロ内相とライム内務省次官補、訪日。市民保護や危機管理の視察のために東京臨海広域防災公園、柏崎刈羽原発、日本製鋼所、日立を訪問。
- 11日、サアル・イスラエル外相、経済代表団とエストニア訪問。ミッハル首相、ツァフクナ外相、ペフクル国防相と中東情勢等に関して会談。在エストニア・イスラエル大使館が開所。
- 12日、ヴァルトネン・フィンランド外相及びシコルスキ・ポーランド外相、エストニア

訪問。外務省107周年記念日にバルト海周辺協力への貢献を評価されて外務省勲章を受章。そのほか、荒井秀子・日エストニア友好協会事務局長が日本におけるエストニア文化紹介に貢献したとして勲章を受章。

●13日、ツァフクナ外相、ドイツ訪問。ヴァーデフル外相と欧州の安全保障に関して会談し、改修された在ベルリン大使館でビジネスハブを開設。

●14日、ルギニエネ・リトアニア新首相、エストニア訪問。ミッハル首相と地域の安全保障やバルト協力に関して会談。

●14日、ツァフクナ外相、バルト理事会会合及びバルト外相会合に出席（於：ラトビア）。地域安全保障や来年のエストニアのバルト協力及びNB8の議長国期間に関して協議。

●15日、エストニア、ルクセンブルクと主導するITコアリションを通じてスターリンク（衛星インターネット）調達用にウクライナに350万ユーロ供与の決定。

●15～22日、ミフケルソン外交委員会委員長、NATO議員会議政務委員会の一員として訪日。小泉防衛大臣と意見交換。

●16～19日、ツァフクナ外相、訪米。議会ヘルシンキ委員会でロシアによる領空侵犯等に関して証言。その他、エストニア人外交官の名前がつけられたニューヨークの通りの記念式典に参加。

●16～19日、カリス大統領夫妻、カザフスタンを公式訪問。トカエフ大統領と国際安全保障に関して会談し、教育・デジタル協力に関する覚書に署名。パコスタ法務デジタル相、レイス・インフラ相、経済・教育代表団が同行。

●21日、ベラルーシ野党指導者のチハノフスカヤ氏、エストニア訪問。ツァフクナ外相とルカシェンコ政権に対する制裁等に関して会談。

●24日、エストニア救助庁、ウクライナ・ハルキウ地方で砲弾、地雷を処理した旨発表。8人が64日間、2回に分かれて活動。また、同庁はウクライナに地雷処理車両2台を供与。

●25日、フッサル議長、ドイツ訪問。クレックナー下院議長らと欧州の安全保障強化に関して会談。ミフケルソン外交委員会委員長及びカリユライド・エストニア・ドイツ友好議連会長が同行。

●26日、エストニア出身のピプコ駐エストニア米国大使、カリス大統領に信任状を捧呈。また、ツァフクナ外相を表敬訪問。

●26～27日、ミッハル首相、ドイツ訪問。メルツ首相らと欧州の安保、ウクライナ支援、経済協力に関して会談し、ザクセン州首相とエストニア Skeleton Technologies 社（ウルトラキャパシタ）ドイツ工場を開設。

3 防衛の主な動き

●3日、カリス大統領、国防評議会定期会合を招集。市民保護や危機対策に関して協議。

●3日、国会国防委員会報告書、過去15年間の国防軍の運営を批判。委員会には過去の司令官に批判的な複数の元士官がおり、ペフクル国防相は主観的な意見である旨コメント。

- 24日、新たなK9自走砲6両、当地に到着。約1億2,000万ユーロで計36両調達。

4 経済の主な動き

- 5日、Skeleton Technologies社、フィンランド（ヴァルカウス）工場を開設。28日にはエストニアからドイツへの最大の産業投資となる2億2千万ユーロを投じてドイツ（ライプツィヒ）工場も開設。日立エナジー等に製品を供給。
- 20日、E-Piim Tootmine社、アンティ・オラヴ氏が社長に就任。前日にはヤーヌス・ムラカス社長が退任。エストニア最大のチーズメーカーで製品の90%以上を輸出。

5 経済関係統計（出典は特に記載がなければ統計庁）

- 2024年相対的貧困率（6日）：19.4%。絶対的貧困率：3.3%。
- 10月消費者物価指数（7日）：前年同月比+4.6%。商品+2%、サービス+8.3%。
- 9月貿易（10日）：輸出は前年同月比+4%の16億ユーロ、輸入は+6%の19億ユーロ。
- 2024年企業売上（14日、ポスティメース紙）：1位 Bolt Technology（モビリティ）19億9210万ユーロ、2位 Eesti Energia（国有エネルギー）17億8520万ユーロ、Elenger Grupp（ガス）9億7830万ユーロ。
- 第3四半期失業率（14日）：前年同期比-0.3ポイントの7.1%。
- 2024年マテリアル・リサイクル率（23日、ポスティメース紙、ユーロスタット）：1位オランダ32.7%、4位エストニア20.5%。EU平均は12.2%。
- 第3四半期平均賃金（27日）：前年同期比+5.9%の2075ユーロ。首都のあるハリユ地方では2,324ユーロ。

6 日本関連報道数

	政治	経済	文化	社会	スポーツ	その他	計
現地記者	0	0	2	0	3	4	9
キャリー	2	0	1	0	2	0	5
不明	0	0	0	0	0	0	0
計	2	0	3	0	5	4	14

（注意）以上の記載内容は、エストニア国内の報道をまとめたものであり、当館としてその記載内容に責任を有するものではありません。